

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671000038		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム大山崎(1階)		
所在地	乙訓郡大山崎町円明寺稲葉1-5		
自己評価作成日	平成27年6月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671000038-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671000038-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成27年7月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校の運動会・祭り・天王山夢蛭公園のハートフェスタなどに参加し、地域と交流することで社会参加できる環境作りに努めている。年間行事とは別に外食・寺院散策・大衆演劇鑑賞などの外出や一時帰宅支援など入居者のニーズを取り入れた個別外出行事を実施している。家人と入居者が一緒に出掛ける機会を作り、そこに職員が付き添うことで安心して出掛けられると喜んで頂いている。ヴィラ大山崎と合同開催の夏祭りでは、グループホーム大山崎の駐車場敷地内でフリーマーケットを開催したことで、たくさんの地域の方や他事業所のグループホームからも参加頂き交流を図ることが出来た。洛和フェスティバルではたこせん屋台や魚釣りゲームを実施したことで、地域の大人の方だけでなく子供達にもグループホームの存在を知って頂き、今後の交流を深める足がかりのきっかけ作りに努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の運動会やまつりなどの行事に積極的に参加し、地域との交流を深めています。大山崎地域・乙訓地域での認知症サポーター講座で講師をするなど、認知症の理解・知識を広められるように努めています。地域との連携によりボランティアや支援の輪が広がり、入居者の希望に合った外出や、地域住民と入居者・家族と一緒に楽しむフリーマーケットを開催することで地域の一員としての取り組みが行われています。看取りの経験も多く、本人・家族が最後まで安心して納得した看取りの支援が受けられるよう、「ドクター5」と称した地域にネットワークを持つ主治医の協力により、職員教育も行われています。また、入居者の家族同士や退所された方の家族をOBとして、意見交換や交流の機会を設けています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとにグループホームの理念は地域性を取り入れ「おとくに」になぞり掲げている。法人理念を唱和したり、職員間で話し合う機会を時々につけケアに生かす工夫をしている。	法人の理念をもとに、地域に密着し共に暮らすことを事業所独自の理念として大切にしています。勤務前やミーティングで唱和し共有と実践に活かす努力をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、お孫さんの運動会見学や地域のボランティアさんの協力で音楽会やマジックショーを開催したりと地域との交流を大切にし、社会参加できる機会を作っている。	自治会の境界線という立地の都合により自治会には加入はしていないが、人権擁護委員や民生委員からボランティア情報や協力を得て地域の行事に参加したり、事業所で開催するフリーマーケットでは地域の幅広い年代の方とも交流を深めることが出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催があれば参加し地域の方の相談を受けたり、グループホームを知って頂く働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回大山崎町役場・地域包括職員、民生委員、人権擁護委員、入居者、家族、併施設長、GH統括、GH職員が参加し開催。GHの運営や取り組みの報告・情報交換と意見をもとにサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、事業所の運営報告や意見交換を行っています。話し合いの中から大衆演劇の観劇・フリーマーケットなど事業所の取り組みに反映することが出来ています。輪番で1年間家族担当者として家族に出席していただき意見・要望をサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、大山崎地域包括ケア会議、乙訓地域GH連絡会、在宅療養手帳委員会などに参加し、研修や情報交換の場で事業所の実情や取り組みなどを報告・相談し連携を図っている。	運営推進会議に役場の方に参加して頂くとともに、大山崎・乙訓といった地域の会議や連絡会に参加し、事業所の活動報告や情報交換を行っています。折鶴の作成・産業まつりに参加など役場や地域包括との連携が図れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束しないケアを十分に理解し、玄関扉の開放やリビング・ベランダ扉も開放。出入り自由な環境を作っている。身体拘束の研修に参加し、学んだことを他職員に伝えることで情報を共有し意識の向上に努めケアに生かしている。	毎年、身体拘束の研修が実施されています。伝達講習により全職員が身体拘束しないケアの徹底理解を図っています。玄関やリビングの扉も鍵を掛けず開放的な環境づくりをしています。帰宅願望の方には止めることなく散歩や、家族の協力を得て一時帰宅・電話で会話するなど寄り添う支援を心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止の研修に参加し、理解を深め話し合いの場をもち互いのケアの振り返りを行っている。虐待が見過ごされることがないように、職員それぞれが注意を払い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用者は現在2名。管理者・職員は研修に参加し事業所内で伝達勉強会を実施。全職員が制度について理解できるように学ぶ機会をもち、必要な方には活用できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、入居・退去時、改定時など適宜説明し同意をもらっている。疑問や不安な点・質問にはその都度答え理解し納得されるまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。無記名の家族満足度アンケートを年1回実施。生活援助計画書作成時には家族に要望を尋ねプランに生かしている。面会時や行事等で交流を深め、普段から話しやすい関係作りに努めている。	玄関に意見箱を設置し、年に1回の家族満足度アンケートを実施して意見・要望の把握に努めます。面会時に声掛けし直接言える関係づくりを心掛けています。意見・要望に対して改善したことや事業所のミスも隠さずに報告し苦情に繋がらないように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回実施。年2回自己評価し力量評価表をもとに個人面談を行い意見・要望などを取り入れている。連絡ノート・管理日誌を活用し日々の伝達・情報の周知と連携を図り、意見を反映させている。	月1回のミーティングや日々の連絡ノートなどにより意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図り話しやすい環境を心掛けています。管理者による年2回の個人面談では自己評価・力量評価をもとに意見・要望などの把握に努めています。異動や資格取得などに関しても自己申告書で聞き取りを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心とやりがいをもって働けるよう個々の心身の状態や勤務状況などの把握に努め、必要に応じ面談したり、働きやすい環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修を実施し個人の力量評価と管理者・リーダー評価により合格者には研修を受講。試験合格者には職位別キャリアパスシールが配布。自身のモチベーションアップとさらに上のランクが目指せる様に支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修(他病院・乙訓医師会開催など)や洛和会介護事業部主催の研修に参加し学びと交流を深め、情報交換の場を通じて自施設の振り返りとサービスの質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化に伴う不安や戸惑いを解消・軽減できる様、入居者の思いや訴え・要望に耳を傾け、安心できる関係作りに努めている。家族とのパイプ役になったり、入居者のニーズに合わせた関わりと対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接や入居後の初期の段階で家族の要望や不安なことなど、納得されるまで親身に受け答えし、安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接で本人や家族から聞き取りを行い、現在の状況と本人の心身の状態をアセスメントし、他のサービス利用や社会資源を視野にいれ見極めをして支援・サービスの導入を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者が出来ることを見つけ、他者と共に生活し支えあえる関係を築く手助けと、生き生きと楽しく暮らしていける環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時はゆっくり過ごして頂く環境を提供。日々の生活の様子を口頭や文章で伝え情報を共有し家族と共に入居者の生活を支えている。家族との絆を大切に、行事など一緒に出掛け過ごせる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人来訪時はゆっくり過ごせる場所を提供し、社会との関係を継続できる支援を行っている。思い出や馴染みの場所に一緒に出掛けたり、一時帰宅支援なども家族協力の下で行っている。	コーラスをされていた馴染みの知人・友人との交流から、事業所でコーラスの開催に至るなど、これまでの関係を断ち切らないように努めています。故郷の風景に良く似た場所へ外出したり、衣替え時に自宅へ戻りご近所の方との交流の機会を設けるなど、一人ひとりの関係を継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の身体状態を把握し、その方に合わせて話題を提供したり、会話の仲介に入り関係が築ける様に支援している。互いを支え、助け合い生活できる環境を作り関われる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所すると交流の機会は少ないが、状況に応じて見舞いや面会に行き関係性の継続を図っている。地域で出会ったら声を掛けたり、近くに来られた時は来訪される家族もあり、関係性の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の思いや意向・希望など把握に努め、普段の関わりから得られる情報や思いを大切に、ケアプランに反映することでその方の望む暮らしが継続できる様に支援している。	日々の関わりの中で会話や表情から思いの汲み取りを心掛けています。センター方式を活用し支援マップ・家族シートから本人・家族の思いや意向の把握に努めています。個別支援についても理由・時期・準備などアセスメントを丁寧に行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談や入居後も家族や入居者から今迄の暮らし方や生活歴を聞き取り把握することで、その方が歩まれてきた人生を大切に關われるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身の状態や病状、ADL低下・認知症症状の進行など些細な変化に気付ける様に観察を行っている。介護日誌・管理日誌・連絡帳などで情報を共有し、カンファレンスで評価し現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族・訪看・主治医・歯科医などの意向や意見を取り入れ、カンファレンスやミーティングで入居者の視点で話し合い、ニーズに添ったケアの実践と一人ひとりの現状に即したケアプランを作っている。	主治医・訪問看護師・歯科医の意見を取り入れ、アセスメントをもとに「私の姿と気持ちシート」等から本人・家族の思いを反映したケアプランを作成しています。入居時には3ヶ月、以降は6ヶ月毎にモニタリングを行い、カンファレンスを行っています。また、状況に応じて見直しや区分変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきや対応・変化など、ケアプランに上がっている課題を含め介護日誌に記録し、伝達や申し送りで情報を共有。職員間で評価しカンファレンスを実施、状態に応じケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の環境や状態・状況変化に柔軟に対応し、他職種と連携しながら支援の方法を検討している。サービスの多機能化に取り組み、実現できる様周囲の協力を得て工夫をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアから本の寄贈や、フラダンス・マジックショー・音楽演奏会などの来訪者や、民生委員・人権擁護委員の方に協力頂き外出援助の同行や夏祭りなどに参加、地域との継続した関わりの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのあるかかりつけ医に、本人・家族の希望や意向を確認しながら往診を依頼している。体調変化があれば主治医に相談し指示の下、適切な医療や治療が受けられる様支援している。	入居時に本人・家族にかかりつけ医の希望の確認をしています。受診は家族の付き添いを基本としているが、必要に応じて職員が同行しています。往診時は受診結果連絡票で家族に様子を伝えています。週1回の訪問看護師による健康管理や、協力医・地域の医師との連携も図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の契約を締結。週1回の定期訪問で健康チェックをしてもらい、体調変化や状態を報告・相談、医療連携看護記録を活用して情報の共有に努めている。急変時や受診相談などこまめに連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを病院へ、退院時は看護サマリーを病院から受け取り情報の共有を図っている。ADLの低下を防ぐ為、早期退院に向けた話し合いを病院職員・家族を交え適宜行い病状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状を家族に伝え段階的に状況に合わせ、入居者や家族の意向や思いを尋ね話し合う機会を作っている。事業所で出来ることなどを明確にし方針を決め、主治医・訪看と連携を図り、マニュアルに添い入居者の臨む終末期に向け支援に取り組んでいる。	今まで6名の看取りを経験しています。入居時に看取りの指針の説明と希望を確認し、終末期を迎える状況に合わせて今後の再確認と同意を得て自然な受け入れを支援しています。介護事業部・乙訓医師会等の研修に参加し、家族の協力のもと主治医・看護師と連携を図り、安心して納得した最後が支援できるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に救急救命講習を受講し、心肺蘇生法や救急処置の方法を学んでいる。急変時の対応や処置についても日頃から職員間で話し合い、研修に参加したり伝達勉強会で対処方法の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年6回、うち2回は乙訓消防署指導による訓練を実施。火災や地震、水害や土砂災害を想定した避難訓練も行っている。地域のイベントや祭りに参加し、GHを知って頂くことで協力体制の構築を図っている。	年6回の防災訓練(内2回は消防署指導による昼間・夜間想定)を実施しています。地震・水害・土砂災害を想定した避難訓練を行っています。水害の避難場所に指定されていることから毛布・水の備蓄品を備え、災害時の地域の拠点としての役割を担っています。	避難訓練に近隣や地域の方に参加・協力を要請されてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「あなたが主人公です」という洛和福祉会の理念をもとに、「意思」「歩まれた人生」「人生の先輩として」尊重するという意識をもち関わっている。プライバシーを損ねない対応にも心掛けている。	トイレ誘導や衣服が乱れている際は、さりげない声かけで自尊心や羞恥心に配慮しています。パット類の保管も目に付かない工夫をしています。声かけで理解が難しい方には、単語で説明するなど一人ひとりに合わせて誇りやプライバシーを損ねない配慮を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を引き出せるよ様に言葉掛け耳を傾け、関係や環境作りに努めている。意思の表出がしにくい方にはいくつかの選択肢を提示し意思確認したり、思いを汲み取れる様寄り添い関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や入居者それぞれの日常生活のリズムを考え、その日の体調や様子をみながら体操やレクリエーション、散歩、家事参加などその時の気分に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、好みの色・柄など入居者に選んでもらったり、汚れたり季節に合わない服装に着替えている時は、そっと居室へ誘導し自尊心を傷つけない様配慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の出来る事や得意な事を取り入れ、食事準備や配膳・片付けなどの工夫や、食事メニューを冷蔵庫にある食材から一緒に考え、旬の食材や好みの食べ物の話題を提供し食の楽しさを感じて頂いている。	冷蔵庫にある食材からその日のメニューを入居者の方と考えています。行事や旬の食材を取り入れたり、誕生日にはその方の好きなメニューなど食欲や食事への関心を引き起こすための工夫をしています。調理や片付けなど出来る事を一緒に行い、カラフルなランチョンマットを使用するなど楽しく食事できる雰囲気作りをしています。	食材を注文される時にも入居者に意見を聞かれてはいかがでしょうか。また、食事介助はその方に合った目線で一緒に食事を楽しみながら安全に配慮した介助をされることが望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや体調変化の観察、体重管理などの実施。食事以外に10時・15時・20時に好みの飲み物でティータイムや、入浴・外出時、発熱などの時はスポーツ飲料などでの水分補給を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝前・食後など口腔ケアにより口腔内の清潔に努め、義歯の方は週2回ホリテント洗浄を実施。スポンジブラシや口腔内ウェットティッシュ・洗浄液なども活用。歯科往診医と連携、口腔内の状態把握にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握しトイレ誘導、必要に応じ援助している。歩行不安定な方は居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援を行っている。オムツ使用の方も気持ちの良い排泄を心掛け、日中はトイレ誘導している。	入居時に排泄と合わせて水分量のチェックを行い、排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。普段は布パンツの方も下痢や体調の悪い時は、失敗や汚すことを気にされないように、本人の状態と気持ちに合わせて紙パンツ・パットを使用することで本人の不安に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分をしっかりと摂れるバランスを考えた食事メニューや、朝食にヨーグルトとオリゴ糖・フルーツ・冷たい牛乳を提供しスムーズな排泄の促進、ラジオ体操や散歩で運動不足の解消で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望を確認し、入浴してもらっている。菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じて頂いたり、温泉の湯などの入浴剤を気分に応じ使用し入浴の楽しみができる支援を実施している。	週に2回以上、その日の体調や希望を確認し入浴を支援しています。浴室の構造上、浴槽のまがが困難な方はシャワー浴の支援となります。仲の良い方同士一緒に入られたり、夕方の入浴など生活習慣や希望に合わせた入浴ができるように工夫しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々に応じた、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ日中臥床での休息や、入居者の生活パターンに合わせた就寝時間の援助を行っている。寝具も季節に応じ変え、室温・湿度に気を配り心地よい眠りの支援と安否確認をし、安心して眠れる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報提供書をファイリング。、薬変更や臨時薬の申し送りと確認。用法や用量・副作用に留意し薬の服薬支援を行う。状態変化があれば迅速に対応し、主治医に報告・相談を密にし連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを役割として、はりのある生活が送れるように支援している。ちぎり絵や塗り絵、歌の会、習字、生け花、裁縫など慣れ親しんだことを個々に提供し、楽しみごとや気分転換が図れる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課としてグイ大山崎地下駐車場までごみを捨てに行ったり、周辺の散歩・ドライブや買い物・外食・喫茶に出掛けている。家族と出掛ける機会や、地域の行事参加には地域の方の協力や情報を頂き、社会との交流を図り社会参加できる取り組みを行っている。	一人ひとりの習慣や希望に合わせてお花見など季節毎の外出や日常の買い物、役場への用事など職員と一緒に出かけしています。受診の帰りに外食をするなど戸外へ出掛けることを積極的に行っています。家族と協力して本人の希望に合った個別外出を計画し実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出行事で出掛ける時に欲しい物を購入できる支援や、行事で売店を作り買い物物の楽しさを味わって頂く工夫をし取り組んでいる。欲しい物がある時は、個別に買い物へ出掛け支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人に葉書を書いて出される方や、声を聞いたり話したい時に、夫婦が互いに携帯電話で話しができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作った貼り絵・ちぎり絵や塗り絵などの作品をリビングや居室に飾ったり、入居者の心身の状態を考えた環境や季節感を取り入れた居心地の良い空間になるようレイアウトの変更をしたり工夫をし、不快のない環境作りを心掛けている。	職員と入居者が一緒に行事や季節に応じた飾りを手作りし季節感を意識した空間作りをしています。「思い出のアルバム」と題した、入居者の若い頃の写真は話題づくりに役立っています。暖簾掛によりプライバシーを確保した上で居室扉を開放され家庭的な雰囲気をつくっています。これらにより明るさ確保と臭気対策にもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーテーションや家具・テーブルやソファを配置し、所々で休憩できるスペースや、入居者との関係性を検討し思い思いにゆったり過ごせる空間と用途に合わせた(食事・体操・団欒・アクティビティなど)居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの家具の持ち込みや、ぬいぐるみ、好きな犬のカレンダー・雑誌・本・雑貨・写真など思い入れのある物を飾り、入居者の身体状態を検討し居心地良く安心して過ごせる工夫をしている。	身体の状況に合わせたベッドの向きや位置をアドバイスしながら、本人・家族とレイアウトしています。仏壇や畳など使い慣れた物を持ち込まれたり、本人の描かれたデザイン画や思い出の品を飾るなど生活スタイルや居心地の良さに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活動線の確保を行い、少しでも長く出来るだけ自立した生活が送れるように迷わない工夫(自室扉に表札と暖簾・トイレの誘導表示板・自席に色分けした座布団など)をし、安心できる環境を作っている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671000038		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム大山崎(2階)		
所在地	乙訓郡大山崎町円明寺稲葉1-5		
自己評価作成日	平成27年6月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671000038-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671000038-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成27年7月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校の運動会・祭り・天王山夢蛭公園のハートフェスタなどに参加し、地域と交流することで社会参加できる環境作りに努めている。年間行事とは別に外食・寺院散策・大衆演劇鑑賞などの外出や一時帰宅支援など入居者のニーズを取り入れた個別外出行事を実施している。家人と入居者とが一緒に出掛ける機会を作り、そこに職員が付き添うことで安心して出掛けられると喜んで頂いている。ヴィラ大山崎と合同開催の夏祭りでは、グループホーム大山崎の駐車場敷地内でフリーマーケットを開催したことで、たくさんの地域の方や他事業所のグループホームからも参加頂き交流を図ることが出来た。洛和フェスティバルではたこせん屋台や魚釣りゲームを実施したことで、地域の大人の方だけでなく子供達にもグループホームの存在を知って頂き、今後の交流を深める足がかりのきっかけ作りに努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階と同じ

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとにグループホームの理念は地域性を取り入れ「おとくに」になぞり掲げている。法人理念を唱和したり、職員間で話し合う機会を時々設けケアに生かす工夫をしている。	1階と同じ(以下同様)	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、お孫さんの運動会見学や地域のボランティアさんの協力で音楽会やマジックショーを開催したりと地域との交流を大切に、社会参加できる機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催があれば参加し地域の方の相談を受けたり、グループホームを知って頂く働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回大山崎町役場・地域包括職員、民生委員、人権擁護委員、入居者、家族、併設施設長、GH統括、GH職員が参加し開催。GHの運営や取り組みの報告・情報交換と意見をもとにサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、大山崎地域包括ケア会議、乙訓地域GH連絡会、在宅療養手帳委員会などに参加し、研修や情報交換の場で事業所の実情や取り組みなどを報告・相談し連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束しないケアを十分に理解し、玄関扉の開放やリビング・ベランダ扉も開放。出入り自由な環境を作っている。身体拘束の研修に参加し、学んだことを他職員に伝達することで情報を共有し意識の向上に努めケアに生かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止の研修に参加し、理解を深め話し合いの場をもち互いのケアの振り返りを行っている。虐待が見過ごされることがない様に、職員それぞれが注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用者は現在2名。管理者・職員は研修に参加し事業所内で伝達勉強会を実施。全職員が制度について理解できるよう学ぶ機会をもち、必要な方には活用できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、入居・退去時、改定時など適宜説明し同意をもらっている。疑問や不安な点・質問にはその都度答え理解し納得されるまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。無記名の家族満足度アンケートを年1回実施。生活援助計画書作成時には家族に要望を尋ねプランに生かしている。面会時や行事等で交流を深め、普段から話しやすい関係作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回実施。年2回自己評価し力量評価表をもとに個人面談を行い意見・要望などを取り入れている。連絡ノート・管理日		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心とやりがいをもって働けるよう個々の心身の状態や勤務状況などの把握に努め、必要に応じ面談したり、働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修を実施し個人の力量評価と管理者・リーダー評価により合格者には研修を受講。試験合格者には職位別キャリアパスシールが配布。自身のモチベーションアップとさらに上のランクが目指せる様に支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修(他病院・乙訓医師会開催など)や洛和会介護事業部主催の研修に参加し学びと交流を深め、情報交換の場を通じて自施設の振り返りとサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化に伴う不安や戸惑いを解消・軽減できる様、入居者の思いや訴え・要望に耳を傾け、安心できる関係作りに努めている。家族とのパイプ役になったり、入居者のニーズに合わせた関わりと対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接や入居後の初期の段階で家族の要望や不安なことなど、納得されるまで親身に受け答えし、安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接で本人や家族から聞き取りを行い、現在の状況と本人の心身の状態をアセスメントし、他のサービス利用や社会資源を視野にいれ見極めをして支援・サービスの導入を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者が出来ることを見つけ、他者と共に生活し支えあえる関係を築く手助けと、生き生きと楽しく暮らしていける環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時はゆっくり過ごして頂く環境を提供。日々の生活の様子を口頭や文章で伝え情報を共有し家族と共に入居者の生活を支えている。家族との絆を大切に、行事など一緒に出掛け過ごせる時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人来訪時はゆっくり過ごせる場所を提供し、社会との関係を継続できる支援を行っている。思い出や馴染みの場所に一緒		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の身体状態を把握し、その方に合わせて話題を提供したり、会話の仲介に入り関係が築ける様に支援している。互いを支え、助け合い生活できる環境を作り関われる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所すると交流の機会は少ないが、状況に応じて見舞いや面会に行き関係性の継続を図っている。地域で出会ったら声を掛けたり、近くに来られた時は来訪される家族もあり、関係性の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の思いや意向・希望など把握に努め、普段の関わりから得られる情報や思いを大切に、ケアプランに反映することでその方の望む暮らしが継続できる様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談や入居後も家族や入居者から今迄の暮らし方や生活歴を聞き取り把握することで、その方が歩まれてきた人生を大切に扱われるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身の状態や病状、ADL低下・認知症症状の進行など些細な変化に気付ける様に観察を行っている。介護日誌・管理日誌・連絡帳などで情報を共有し、カンファレンスで評価し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族・訪看・主治医・歯科医などの意向や意見を取り入れ、カンファレンスやミーティングで入居者の視点で話し合い、ニーズに添ったケアの実践と一人ひとりの現状に即したケアプランを作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきや対応・変化など、ケアプランに上がっている課題を含め介護日誌に記録し、伝達や申し送りで情報を共有。職員間で評価しカンファレンスを実施、状態に応じケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の環境や状態・状況変化に柔軟に対応し、他職種と連携しながら支援の方法を検討している。サービスの多機能化に取り組み、実現できる様周囲の協力を得て工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアから本の寄贈や、フラダンス・マジックショー・音楽演奏会などの来訪者や、民生委員・人権擁護委員の方に協力頂き外出援助の同行や夏祭りなどに参加、地域との継続した関わりの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのあるかかりつけ医に、本人・家族の希望や意向を確認しながら往診を依頼している。体調変化があれば主治医に相談し指示の下、適切な医療や治療が受けられる様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の契約を締結。週1回の定期訪問で健康チェックをしてもらい、体調変化や状態を報告・相談、医療連携看護記録を活用して情報の共有に努めている。急変時や受診相談などこまめに連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを病院へ、退院時は看護サマリーを病院から受け取り情報の共有を図っている。ADLの低下を防ぐ為、早期退院に向けた話し合いを病院職員・家族を交え適宜行い病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状を家族に伝え段階的に状況に合わせ、入居者や家族の意向や思いを尋ね話し合う機会を作っている。事業所で出来ることなどを明確にし方針を決め、主治医・訪看と連携を図り、マニュアルに添い入居者の臨む終末期に向け支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に救急救命講習を受講し、心肺蘇生法や救急処置の方法を学んでいる。急変時の対応や処置についても日頃から職員間で話し合い、研修に参加したり伝達勉強会で対処方法の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年6回、うち2回は乙訓消防署指導による訓練を実施。火災や地震、水害や土砂災害を想定した避難訓練も行っている。地域のイベントや祭りに参加し、GHを知って頂くことで協力体制の構築を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「あなたが主人公です」という洛和福祉会の理念をもとに、「意思」「歩まれた人生」「人生の先輩として」尊重するという意識をもち関わっている。プライバシーを損ねない対応にも心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を引き出せるよ様に言葉掛け耳を傾け、関係や環境作りに努めている。意思の表出がしにくい方にはいくつかの選択肢を提示し意思確認したり、思いを汲み取れる様寄り添い関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や入居者それぞれの日常生活のリズムを考え、その日の体調や様子をみながら体操やレクリエーション、散歩、家事参加などその時の気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、好みの色・柄など入居者に選んでもらったり、汚れたり季節に合わない服装に着替えている時は、そと居室へ誘導し自尊心を傷つけない様配慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の出来る事や得意な事を取り入れ、食事準備や配膳・片付けなどの工夫や、食事メニューを冷蔵庫にある食材から一緒に考え、旬の食材や好みの食べ物の話題を提供し食の楽しさを感じて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや体調変化の観察、体重管理などの実施。食事以外に10時・15時・20時に好みの飲み物でティータイムや、入浴・外出時、発熱などの時はスポーツ飲料などでの水分補給を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝前・食後など口腔ケアにより口腔内の清潔に努め、義歯の方は週2回ポリッシュ洗浄を実施。スポンジブラシや口腔内ウエットティッシュ・洗浄液なども活用。歯科往診医と連携、口腔内の状態把握にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握しトイレ誘導、必要に応じ援助している。歩行不安定な方は居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援を行っている。オムツ使用の方も気持ちの良い排泄を心掛け、日中はトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分をしっかりと摂れるバランスを考えた食事メニューや、朝食にヨーグルトとオリゴ糖・フルーツ・冷たい牛乳を提供しスムーズな排泄の促し、ラジオ体操や散歩で運動不足の解消で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望を確認し、入浴してもらっている。菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じて頂いたり、温泉の湯などの入浴剤を気分に応じ使用し入浴の楽しみができる支援を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ日中臥床での休息や、入居者の生活パターンに合わせた就寝時間の援助を行っている。寝具も季節に応じ変え、室温・湿度に気を配り心地よい眠りの支援と安否確認をし、安心して眠れる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報提供書をファイリング、薬変更や臨時薬の申し送り確認。用法や用量・副作用に留意し薬の服薬支援を行う。状態変化があれば迅速に対応し、主治医に報告・相談を密にし連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを役割として、はりのある生活が送れるように支援している。ちぎり絵や塗り絵、歌の会、習字、生け花、裁縫など慣れ親しんだことを個々に提供し、楽しみごとや気分転換が図れる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課としてウイング大山崎地下駐車場までゴミを捨てに行ったり、周辺の散歩・ドライブや買い物・外食・喫茶に出掛けている。家族と出掛ける機会や、地域の行事参加には地域の方の協力や情報を頂き、社会との交流を図り社会参加できる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出行事で出掛ける時に欲しい物を購入できる支援や、行事で売店を作り買い物の楽しさを味わって頂く工夫をし取り組んでいる。欲しい物がある時は、個別に買い物へ出掛け支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人に葉書を書いて出される方や、声を聞いたり話したい時に、夫婦が互いに携帯電話で話しができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作った貼り絵・ちぎり絵や塗り絵などの作品をリビングや居室に飾ったり、入居者の心身の状態を考えた環境や季節感を取り入れた居心地の良い空間になるようレイアウトの変更をしたり工夫をし、不快のない環境作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーテーションや家具・テーブルやソファを配置し、所々で休憩できるスペースや、入居者との関係性を検討し思い思いにゆったり過ごせる空間と用途に合わせた(食事・体操・団欒・アクティビティなど)居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの家具の持ち込みや、ぬいぐるみ、好きな犬のカレンダー・雑誌・本・雑貨・写真など思い入れのある物を飾り、入居者の身体状態を検討し居心地良く安心して過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活動線の確保を行い、少しでも長く出来るだけ自立した生活が送れるように迷わない工夫(自室扉に表札と暖簾・トイレの誘導表示板・自席に色分けした座布団など)をし、安心できる環境を作っている。		